

CVMにおける意思決定過程の分析： NOAAのガイドラインの認知心理学的検証

社会環境エンジニアリング事業部 須田日出男 他

○キーワード

CVM、整備効果計測法、意識調査分析、環境計画

○概要

環境等の非市場材の価値を計測するCVMには、様々なバイアスが存在する危険性が指摘されているが、それらを回避するためにNOAAのガイドラインが提案されている。しかし、このガイドラインの信頼性はいまだ十分に検証されていない。本研究は、この点を検討するために、ガイドラインに基づく栗山らによる屋久島の自然の価値計測のためのCVMを模倣し、発話プロトコル法と呼ばれる認知心理学における分析技法を用いて被験者の意思決定プロセスを分析する。分析の結果、NOAAのガイドラインでも適切に価値計測を行うことは容易ではないことが示された。

○技術ポイント

定性的に議論されていたCVMのバイアスの存在の可能性を、認知心理学の分析技法(発話プロトコル法)を用いて定量的に実証した新しい試み。具体的には、インタビュー方式により被験者の意思決定プロセスデータを統計的に分析している。

○図・表・写真等

下表は、CVM法で用いる環境を守るための被験者の支払い意思額(Willingness to pay)を尋ねるアンケート用紙例である。この結果を統計処理して環境の価値を計測する。ここでは、屋久島の環境の価値を尋ねている。

アンケート表

以上に説明した屋久島保護施策を実施するとあなたの世帯の税金は、来年だけ〇〇〇〇円増加します。もちろん、この税金の増分は屋久島を守るためだけに使われます。この施策の実施によって、あなたが普段購入している商品などに使える金額が減ることを、十分に念頭においてください。屋久島保護施策を実施すれば来年だけ〇〇〇〇円の税金が増える時、あなたは、この屋久島保護施策に賛成ですか、反対ですか？

1.賛成 2.反対 3.分からない